

第4回甲賀市総合計画策定審議会 会議録

- 開催日時** 平成27年9月14日（月）19：00から21：00まで
- 開催場所** 甲賀市役所 水口庁舎3階 第2・3会議室
- 出席委員** 新川会長、小坂副会長、大原委員、岡村委員、川端委員、武田委員、田中委員、谷井委員、谷口委員、中森委員、林委員、星野委員、丸山委員、松田委員、藪下委員、兼松委員、坊迫委員、松村委員
以上18名
- アドバイザー** 滋賀県総務部市町振興課 三井課長補佐
- 事務局** 平尾総合政策部次長、野尻政策推進課長、出嶋課長補佐、北林係長、清水主査、田原主査、折田主事
- 会議次第**
1. 開会
 2. 協議事項
 - (1) 現総合計画の成果と課題について
 - (2) 甲賀市人口ビジョン（案）について
 3. その他
 4. 閉会
- 会議資料**
- 資料1. これまでの議論のキーワードについて
- 資料2. 人口ビジョン・総合戦略の検討
- 資料3. 平成26年度 甲賀市総合計画の実施状況について
- 資料4. 住みよさランキング2015の分析結果【甲賀市】
- 資料5. 甲賀の國づくりプロジェクト
ー甲賀流まち・ひと・しごと創生戦略（骨子）草案ー

第4回 甲賀市総合計画審議会 会議録

開催日時：平成27年9月14日（月）19：00から21：00まで

開催場所：甲賀市役所 水口庁舎3階 第2・3会議室

会議内容

1. 開会（あいさつ）

小坂副会長：先日の鬼怒川の災害について、お見舞いを申しあげたい。あたり前のような家族との生活がどれほど大切か再認識した。このような普段の生活が「豊かさ」なのだと思う。この視点を大切にして、建設的な意見をお願いしたい。

3. 現総合計画の成果と課題について

小坂副会長：事務局より「現総合政策の成果と課題について」の説明をお願いします。

事務局：資料3に基づき事務局より説明。

小坂副会長：委員の皆様のご意見をお伺いします。

大原委員：16ページ「学びと育ち、きずなが育む甲賀の未来プロジェクト」の2番「特色ある学校推進事業割合」について、「教育活動予算に占める特色ある学校推進事業費の割合の10%までの拡大をめざす」との目標は、教育活動予算全体のうち、特色ある学校推進事業費の割合を10%伸ばすということか。教育全体の予算と学校推進事業予算が比例するとは一概にいえないのではないか。

事務局：ご意見のとおり、分母が教育活動予算であり、分子が学校推進事業費予算であるため、この指標の持ち方に問題があると考えている。第2次甲賀市総合計画の策定過程においては、再検討が必要と考える。例えば、事業の達成率や事業数で指標を選定するなど、改善が必要と思われる。

丸山委員：14ページの42番「観光ボランティアガイド登録者数」について、目標を達成したらストップする考え方は残念だと思う。ボランティアガイドのやりがいを削がないような配慮が必要である。

事務局：単に登録者数が増えればよいというものではない。今後はさらに質を高め、活躍していただけるような指標設定が必要と考えている。

丸山委員：登録者がフェードアウトしないような配慮を願う。

小坂副会長：ボランティアガイドは基本パターンがあり、市内で一律のガイドをするのか。

事務局：地域ごとに特色があり、地域ごとに基本ストーリーは決めていると思われる。

小坂副会長：地域に住む全ての人がガイドのようになるのが理想である。市民の全てが自分の住んでいる地域を知り、誇ることができれば、また、違っ

た効果が生まれてくるのではないか。

中森委員：9ページと14ページの「農作業被害額」は、どのように積み上げられた数字なのか。

事務局：数値の積み上げ方式はわからないが、共済や聞き取りによるものだと思う。

中森委員：4、5年前に農事改良組合を通じて被害状況調査があった。その集計も複雑で、本当に正確な数字があがってくるのか疑問を感じた。中山間地域での高齢者の野菜づくりなどの「やりがい」を考えると、この数字が全てではないと思う。

事務局：詳細は後日確認させていただきたい。また、中山間地域においては、日常の暮らしに関わる獣害対策も必要と認識している。

星野委員：平成19年の10カ年計画の時、年間観光入込客数が10年後に1000万人の目標となっている。これは漠然とした目標だったのか、細部にわたって700万人増を積み上げたものだったのか。

事務局：積み上げはされていない。現在の状況と目標は大きく乖離しているが、毎年観光入込客数は増えており、目標に向けて伸びていると理解いただきたい。

事務局：観光入込客数の内訳をみるとゴルフ場の利用者が多い。実際の観光客が何人なのかの把握も必要と考えている。市民目線で目標数値を議論していきたい。

小坂副会長：数値目標を達成していないが、良い動きがあった施策はさらに補足していく、あるいは施策を練り直すなどの検討が必要である。

事務局：第2次総合計画の策定に合わせて、成果を確認し、伸びていないところは伸ばしていくような計画としたい。

小坂副会長：目標数値を達成して安心するのが一番恐いし、数値が全てではない。その目標達成というものも本当の達成ではないかもしれない。新たなものを創り出すよりも、あるものの形を変えていく、「ないものねだりより、あるもの活かし」をしていけば、予算的にも無理がないのではないか。

事務局：達成できたから安心という認識はしていない。それをまた上に伸ばすという指標の持ち方もあろうかと思う。

小坂副会長：ほかに意見はございませんか。それでは次の議題に移ります。

2. 甲賀市人口ビジョン（案）について

新川会長：甲賀市人口ビジョン（案）について事務局より説明願います。

事務局：資料1、2、4、5に基づき説明。

中森委員：資料2「課題を踏まえた目指すべき将来の方向性」で、出生率2.07を達成するには、結婚までの出会いの場などの支援が必要だと思う。現在の結婚相談は、農業振興課が窓口になっており、農業後継者への支援が表に出過ぎているのではないか。

谷口委員：工業系職種では出会いの場が限られていることから、工業会のインフラ委員会の主催で婚活パーティーを開いている。先日のパーティーでは、5組のカップルができた。やはり「出会いの場」を提供するだけでも大分変わってくる印象がある。

林委員：先日、地域コミュニティ交流研修会が開催され、島根県雲南市の地域での婚活事業のお話を聞いた。婚活にあたり「男磨き講座」を実施し、その後、出会いパーティーを開催した結果、地域では0～4歳の人口が増加しているとのことであった。出生率の向上のためには、自分を磨く研修や出会いの場は必要であると思う。

中森委員：最近では女性が主導権をもつカップルが多い。「男磨き」など男女問わず、自分を磨く視点は必要だと考える。

谷井委員：地元で育った男性は、地元の知り合いも多い。婚活を誰かに見られるとカッコ悪い、恥ずかしいという思いもあると思われる。このような方は市内での婚活は難しいのではないかと。地域のなかで結婚していない30代を見ると、仕事、就職が安定していない方が多く「しごと」がネックになっているようである。最後は経済力だと思う。

藪下委員：「甲賀の國づくりプロジェクト」は、人口ビジョン・総合戦略に関するプロジェクトで、基本目標4つを作ったという解釈でよいか。

事務局：本プロジェクトは「人口減少対策」という視点で作った。その中には「しごとをつくる」という視点も入っている。

藪下委員：骨子が総花的に感じるところもある。総合戦略をこれから詰めていくなかで、民間と行政の役割分担を明確にした方が、受け手は分かりやすいと考える。

新川会長：総合戦略を詰めていくにあたり、行政としてできること、民間の力を借りてできることなど、役割分担や様々な協力の仕方があると思う。次回も議論を深めていきたい。

武田委員：転出者のなかでも女性が特に多い。大学を誘致するのは難しいと思われるので、高校生を対象とした対策が必要だと思う。地元定着のためには、高校生に対して市内企業の魅力を伝え、就職に関するガイダンスを強化しなければならない。自治体も就労に関するアドバイスをするための担当を設置し、地元の企業とのパイプ役となるというのはどうか。高校卒業時に「就労すること」の魅力を伝えることが大切だと思う。

新川会長：就業・雇用という面から、市としての施策の方向性を定めるのが、今回の総合戦略の一つの目玉でもある。就業支援を市としてどう位置づけ、実現可能なところに働きかけていくのか、検討が必要である。

小坂副会長：「自治の力を底上げし、幸福度が高まる」というのは大切な視点だと思う。結婚し家族ができれば、家族が幸せであるにはどうすればよいか、それぞれが知恵を出しあうことができる。子ども達も自分の住んでいる地域を自慢できる場所だと思えば、ここに住んでいたいと思うは

ずである。そのためには「あれもこれも」ではなく、一本釣りですぐにこれだというもの大きくすることで可能性が広がっていくのだと思う。楽しみながら、遊び心をどこかにもちながら、「これを絶対にしなければならない」ではなく、「これをやってみたら面白い」という感覚が必要である。お金をかけないで知恵をかける。発想は大胆に、やる時は慎重に。

星野委員：人口ビジョンの11ページ「出生率との相関が強いと考えられる指標」について、20～39歳女性人口の割合と有配偶率の相関グラフを見ると、栗東市だけが他の市町の固まりから外れている。その理由は何か。

事務局：若年女性が多いことがその要因だと分析している。20～39歳女性の割合が高いのは、JR琵琶線へのアクセス環境がよく、買い物のしやすい環境等が若年女性の割合を上げている。結果、有配偶率の増、合計特殊出生率の増にもつながっていると分析している。

星野委員：栗東市は、開発指導で小規模なワンルームマンションを規制している。ファミリータイプの賃貸マンションに開発誘導した結果、このような結果になっているのではないか。

谷口委員：栗東トレーニング・センターがあるのは大きいと思う。子育て施策などが充実しているのかは分らないが、結婚して新居は栗東という意見も多い。

事務局：栗東市は過去に乳幼児の医療費助成を中学生まで拡大していたと聞き及んでいる。そのときも転入者が大きく増加したようである。

大原委員：人口を増やすには、特に教育に力を注ぐ必要がある。例えば、男の子の「やんちゃ度」を伸ばしてあげる教育など。先生方も授業効率よりも、チャレンジ精神を重視した授業を行い、これらの授業が円滑に進むためのテクニックを磨き、力を発揮していただければと思う。

小坂副会長：甲賀のよいところは、お金をかけなくても生きる力を伸ばせるような自然環境が沢山あるところである。甲賀の地形、環境等を活かして、「生きる力」をもっと学べるところになるのであれば、教室で1足す1は2と習わなくても、1足す1は5、10でもよいという教育があってもよいのではないか。それらが住み心地日本一の甲賀市に繋がるのだと思う。

新川会長：小さな時から男性、女性の持ち味を活かした、それぞれの個性を伸ばすような教育が必要ということである。

田中委員：人口減少は食い止められないという現実がある。その施策として、例えば、地域や地域の活動に関わる人がもっと増えることが、人口減少の解決策の一つになるのではないか。「地域」と「人」をつなげるような施策を考える必要があると思う。

新川会長：甲賀らしい地域づくりとは、「ひとづくり」なのだと思う。

- 小坂副会長：高齢化問題とよく言われているが、高齢者が健康寿命を伸ばすということが一番大切である。高齢者も単なるノスタルジーで楽しむというのではなく、知恵や工夫を英知として伝えていく役割を担っていただき、社会参加していただくことが求められる。そうすることで地域と地域、人と人のつながりができてくると思う。そのような英知を伝える「場づくり」が行政の仕事である。「一人のひとは、ひとつの図書館」というほど生きてきた貴重な経験を持っておられる。図書館が沢山あると考えれば、素晴らしい宝である。活用しなければと思う。
- 谷井委員：基本目標2「ふるさと愛を最大化し、みんなで「ひと」を育てる」の「ひと」だが、外向きに目がいつているような感じがする。行政や住民の窓口で対応される方の意識の向上が求められる。親切な「おもてなしの心」が必要である。
- 新川会長：住みやすく、魅力的なまちだと思っていただくためには、市民あげて、住みやすく、一緒に暮らしていく気運が必要だと思う。特に公共部門のサービス意識の徹底が必要である。また、素晴らしい施策やサービスがあっても、市民の皆さんに伝わっていないことがある。「伝える」努力が求められる。
- 丸山委員：資料5の基本目標2の5番「「生き方」の多様な選択肢を広げ、「多様さ」を活かす」については、よい考え方だと思う。日々の仕事がある人が多く、時間の関係上、行政サービスを受けることもままならない市民も多い。窓口サービスの多様性も検討いただきたい。金融機関と連携した不妊治療ローンなど甲賀市ならではのアイデアを大切にしていきたい。
- 坊迫委員：基本目標1の2番「若者が地域に「留まる」または「帰ってくる」ための支援を行う」は、私も同意する考え方である。私の就職は甲賀市ではなく外に出ることが決まった。外に出ていった人の方が客観的に甲賀市を見ることができるのではないかと。一度、市外に出ていった人が帰ってきやすい地域にすることで、帰ってきた人は発信力が強くPRできると考える。女性の視点としては、子育てがしやすい環境に戻ってきたいと思う。若者が外に出るのはある程度仕方ないことだが、その若者が帰って来やすいまちづくりを行い、学びの場が沢山ある市になることが理想である。
- 新川会長：貴重な意見である。若者が一度、市外に出て行くのは仕方がないことだが、できるだけ多くの人に帰ってきていただきたいし、戻ってきたいと思えるようなまちであって欲しい。甲賀市という「まちの良さ」を若者が共有できるような取り組みが必要だと思う。
- 小坂副会長：若い人は、夢を叶えるために「外の世界」を知る方がよいのかもしれない。「志を果たして」帰るのではなく、「志を果たしに」いつの日か帰らんという思いの若者が増えれば、若者を待っている者も、いつの日か帰ってきてくれるんだという期待がある。ここに住んでいてよか

った、これからもここで生きていこうという、一人ひとりの「納得の人生」が甲賀市を着地点としてくれるのではないかと思う。

新川会長：志を持つような若者を育てていただきたいと思う。他に意見はございませんか。その他にご意見がある場合は、事務局までお寄せください。それでは次の議題に移ります。

4. その他

事務局：次回開催日は10月15日、木曜日の午後7時からとしたいと思います。場所は追って連絡します。内容については、人口ビジョン・総合戦略（案）、社会潮流と地域資源の分析結果についてご意見をいただきたいと考えています。6回目については11月になろうかと思いますが、日時については、後日決めさせていただきます。

5. 閉会

新川会長：熱心にご議論いただき感謝申し上げます。以上をもって閉会とします。

事務局：今回の資料も内容が多岐であるため、後日でかまいませんので、メール、電話、ファックス等で意見等をいただければと思います。本日はご苦労さまでした。

以上